

特別支援教育の推進に関する研究

研究主題

幼児・児童一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

特別支援教育の構築を目指して！

- 「理解」 特別支援教育の理解と、発達障害、情緒障害の理解
- 「気づき」 幼児・児童一人一人の教育的ニーズの把握
- 「支援」 通常の学級での担任による配慮の仕方、支援方法の確立
- 「体制」 学級を越えた学校全体での支援体制、地域全体で支援する具体的なシステム



深谷市立藤沢小学校・藤沢幼稚園

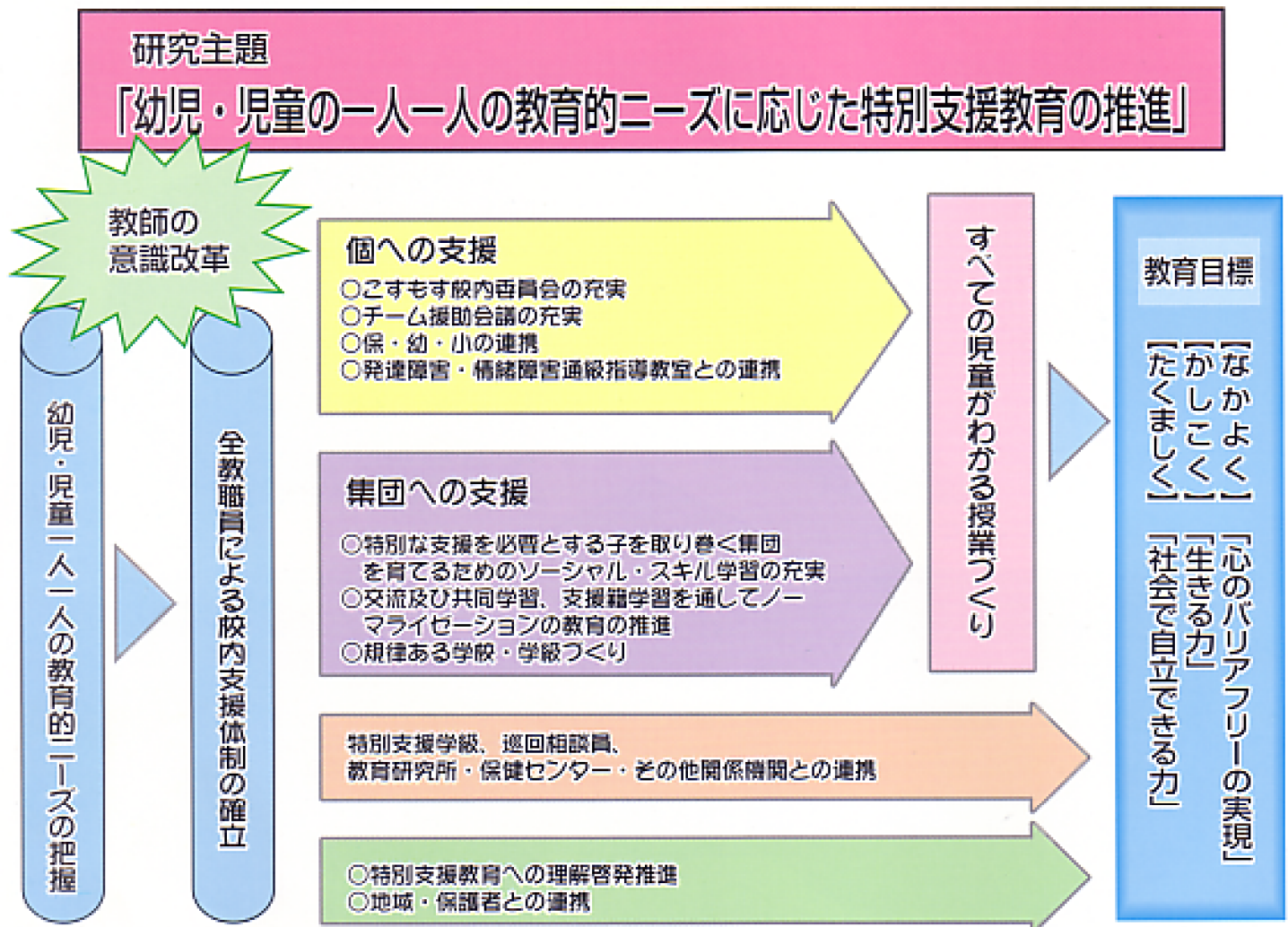
〒366-0811 深谷市人見 1626番地

TEL048-571-2107 FAX048-571-2648

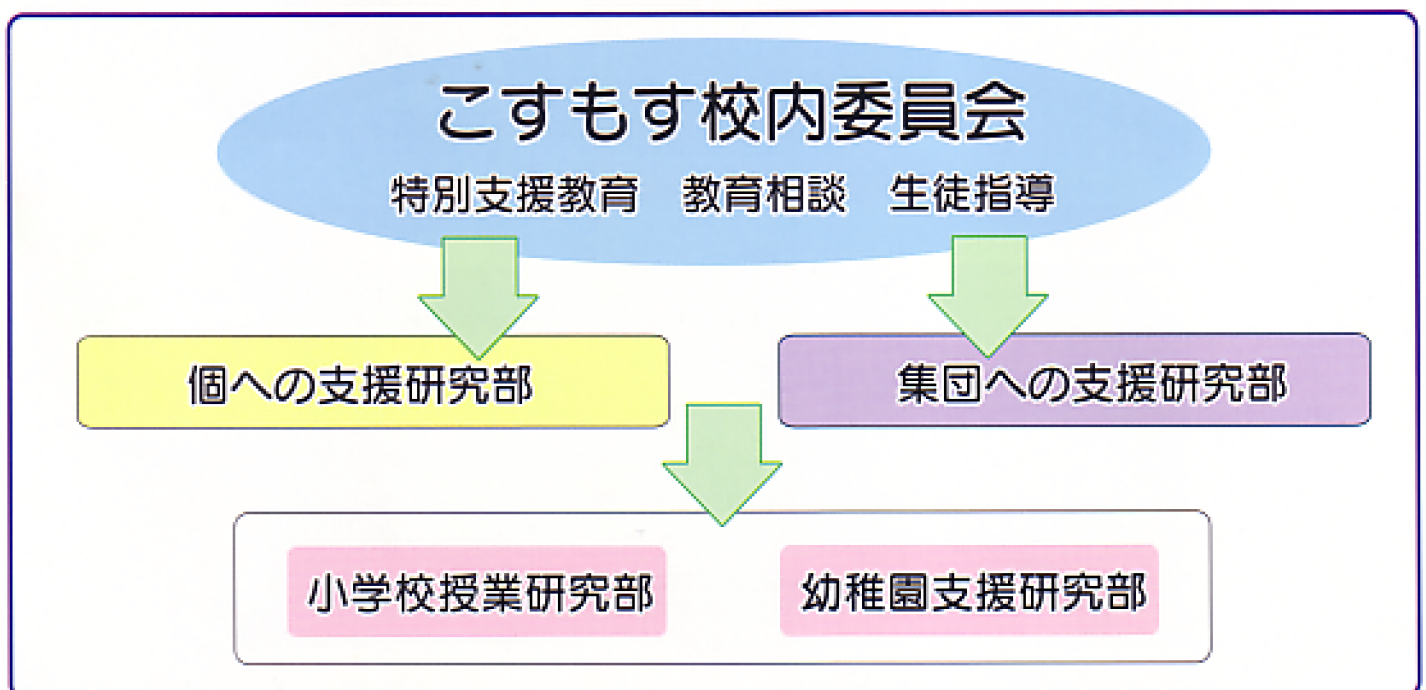
E-mail fujisawa-e@fukaya-fujisawa-e.ed.jp

URL www.fukaya-fujisawa-e.e

基本構想



研究組織

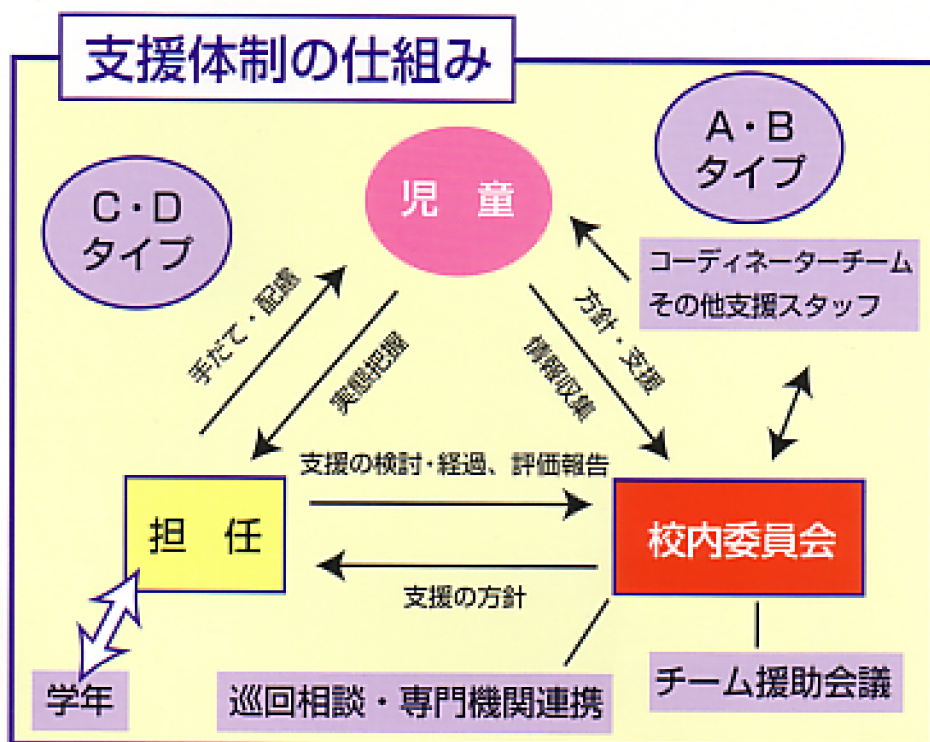


具体的な実践

チームで対応する「個」への支援

気づきから支援体制へ

- ☆「特別支援教育」に対する教師の意識改革
- ☆「困った子」から「困っている子」という捉え方
- ☆担任を一人にしない体制づくり



チームで対応

- 児童を支える支援のかたち
- Aタイプ 拡大チームでの支援
 - Bタイプ チームでの支援
 - Cタイプ 学年団での支援
 - Dタイプ 担任中心の支援

チーム力強化のため

- 共通理解
- 個別の指導計画の作成
- 話し合う場の設定
- 学年会・校内委員会
チーム援助会議等

『集団』としての力を育てる

一人一人の違いを認め、相互理解を深め、よりよい人間関係を築くための集団支援

- ☆ソーシャル・スキル学習の充実
- ☆交流及び共同学習、支援籍学習の推進
- ☆規律ある学校・学級づくり

支援籍学習
家庭科の調理実習

ソーシャル・スキル授業
教師によるモデリング

ソーシャル・スキル授業
ロールプレイング



すべての児童がわかる授業づくり

個に応じた支援策を明確にした授業の工夫・充実

- ☆指導法の工夫・改善
- 授業観の転換
- 授業のテンポ
- 発問の仕方
- 板書指示
- 教材教具の工夫
- ☆教材教具の環境整備



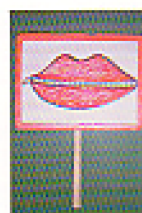
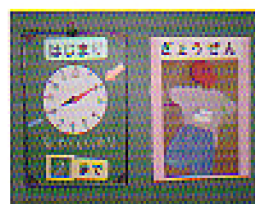
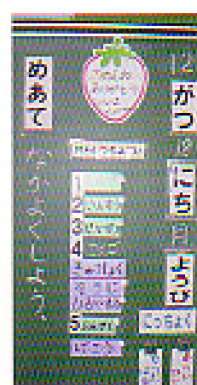
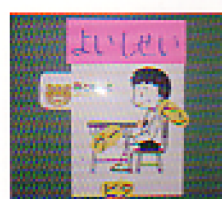
体育科での指導



生活科での幼児とのふれあい



工夫・考案した教具

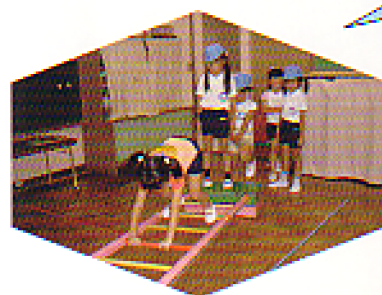


園内支援体制の充実

支援を要する幼児に気づき、支える園内体制

保育・環境の整備と充実

- ☆教師の意識改革と特別支援教育の理解に関する研修
- ☆個別の指導計画の作成
- ☆小学校との連携
- ☆保育へ活かす巡回相談
- ☆保護者への支援



室内での巧技台遊び



一年生と一緒に砂遊び

工夫・考案した教具

畑でのじゃがいもの収穫



研究成果と課題

成 果

教 師 の 変 容

教師の意識改革を図る特別支援教育の充実

- 特別な支援を必要とする児童への理解や支援方法を広げ深めることができ、配慮や指導の質が高まった。
- 学習指導案に、「個への支援」を盛り込むことにより、個々の児童を配慮する授業が展開できるようになった。
- 児童の実態を考慮し、手だてや配慮のために工夫した教材教具を授業で活用するようになった。
- 通級指導教室での「個」への指導方法が、全体への有効な手だてとして学級でも活用された。

チーム力を生かした校内支援体制の確立

- 学級で「気になる子」を校内委員会が集約することで「支援体制」への道筋ができた。
- チーム援助会議を迅速に開き、担任一人での抱え込みを防ぐことができた。

関係機関との連携を図る対応力の向上

- 保幼小の連携により、早期の対応や支援の継続が図られ、保育園・幼稚園から小学校に受け入れる対応がスムーズになった。
- 特別支援学校や専門機関との連携、巡回相談の活用により教師の資質の向上が図られた。

児 童 の 変 容

わかる授業の喜びを味わう児童

- 特別支援教育の視点が授業に生かされ、個に応じた授業が展開され、わかる喜びを味わう児童が増えた。
- アンケート結果によると「進んで勉強する子になりましたか」については「よくあてはまる」が昨年と比べ、33%から44%に増えている。

人間関係づくりに取り組む児童

- ソーシャル・スキル学習を中心に児童が良好な人間関係を築くようになった。
- アンケート結果によると「どの人にもやさしい子になりましたか」については「よくあてはまる」「あてはまる」が昨年の86%から88%へと増えている。

ノーマライゼーションの理念に基づく社会づくりの基礎を培う児童

- 交流及び共同学習、支援籍学習等の実践により、障害の有無に関わらず個性を認め合い、共に生きる喜びを味わう生活ができるようになった。

保 護 者 の 変 容

学校との信頼関係の深まり

- 教育相談日を活用し、ていねいな面談を繰り返し実施することで、保護者は学校や担任に安心感・信頼感をもつことができた。
- チーム援助会議に保護者も参加することで、教師と保護者との相互理解ができ、保護者の児童に対する対応にも変容が見られた。

課 題

- 学校を拠点として情報を発信し、地域ぐるみの特別支援教育を推進する。
- 豊かな心の育成、確かな学力の定着を特別支援教育の視点から充実させる。

すべての教育活動の基盤となる特別支援教育

個々が認められ 安心 明るく 楽しい学校
学級崩壊防止、いじめ撲滅、不登校ゼロ等の課題解決にも有効



あいさつ運動



花いっぱい運動



学級経営



児童集会

関係機関との連携

保幼小中

教育研究所

巡回相談

特別支援学校

本庄養護学校、熊谷養護学校
盲学校、ろう学校、その他

通級指導教室

セルフサポート教室、
きこえとことばの教室等

医療機関
福祉機関

地域

自治会長・児童民生委員
公民館、学校応援団

保護者

